

【学校教育目標】

心も体も健康で、すすんで学習する子の育成

【めざす子ども像】

○ 確かな学力： 深く考える子

- ・ 自主的に判断し、行動できる
- ・ 確かな学力を身につける
- ・ 創造性を伸ばす

- ・ 基礎学力の定着と向上
- ・ 個性と創造力の育成

○ 豊かな心： なかよく認め合う子

- ・ 人権を大切にする
- ・ 物を大切に使う
- ・ 動植物をかわいがる

- ・ 人間愛・自然愛に基づく
豊かな心情の育成

○ 健やかな体 元気でがんばる子

- ・ 体と心をきたえる
- ・ 根気強くやりぬく
- ・ きまりを守り行動する
- ・ 進んで働く

- ・ 体力の増進と意思の強化

【学校経営方針】

児童・保護者・地域から信頼される学校をめざす

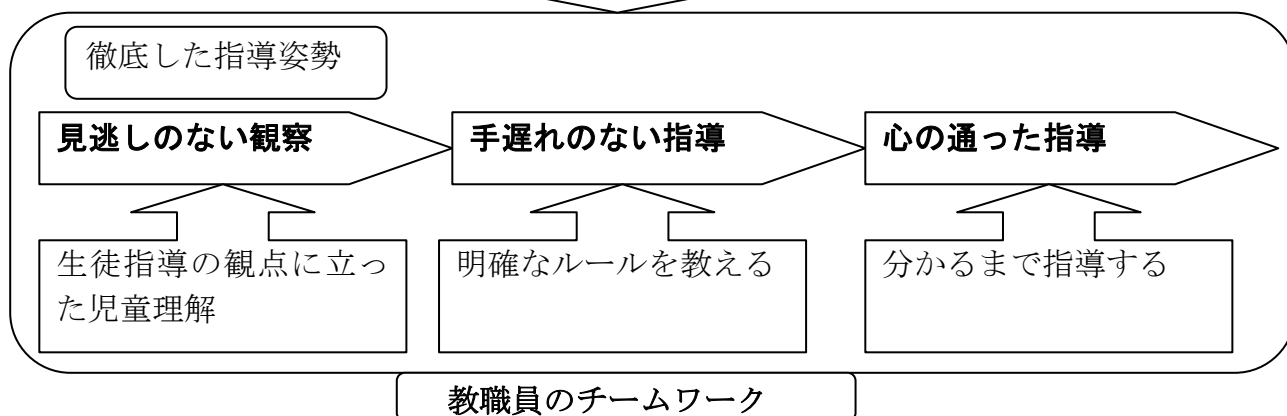
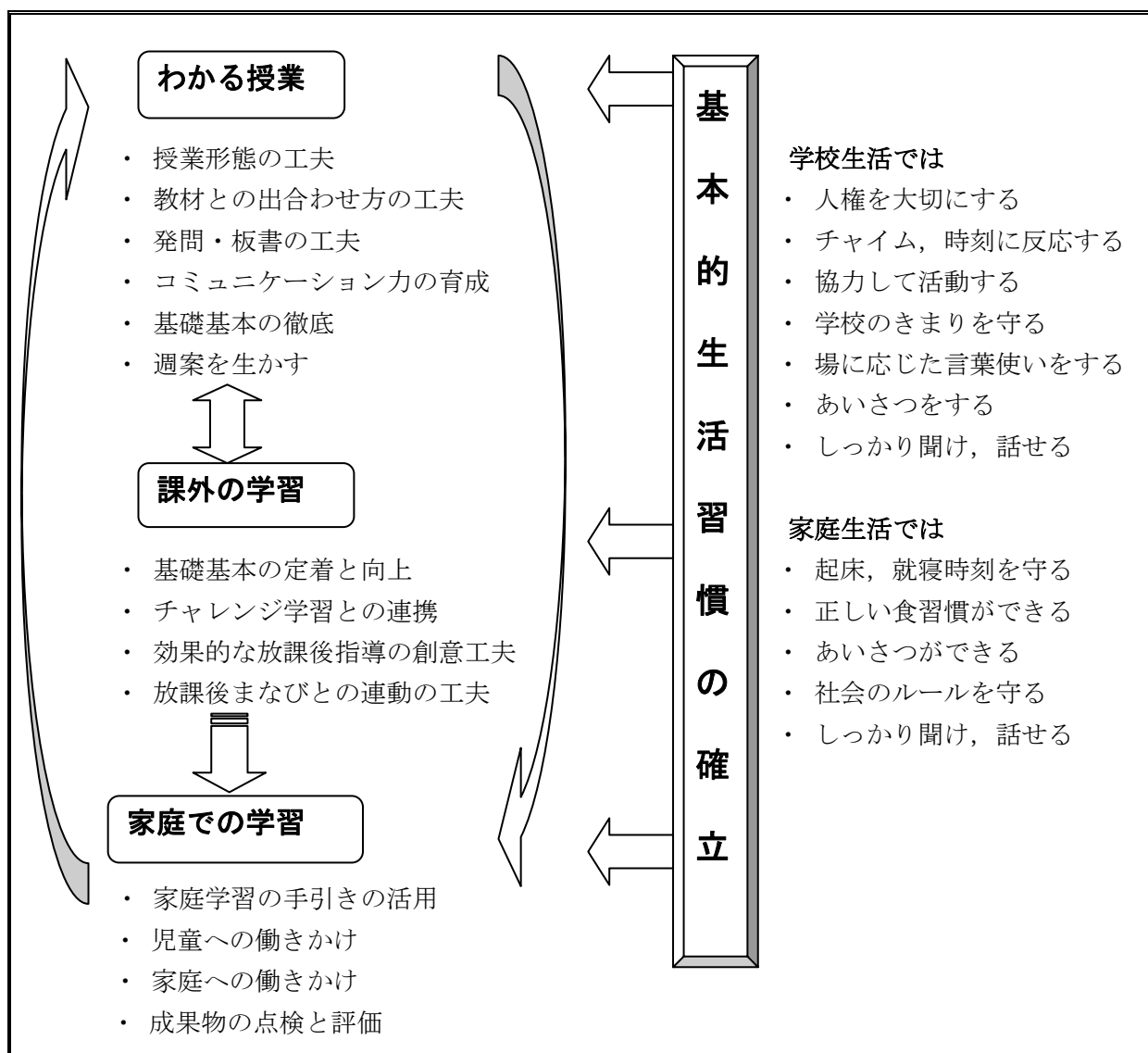
- ・ 困難に立ち向かう活力と協働体制を強化した学校づくり
- ・ 学習指導・生徒指導の力量を高める教職員集団作り
- ・ 開かれた学校づくり … 家庭・地域の役割の明確化と連携の強化
家庭訪問と学校評価の有効活用
- ・ 子ども達にとって伸び伸びと過ごせる学校作り
- ・ 分からないことが自然に分からないと言え、試行錯誤ができる学校作り

学年教育目標・学級経営目標・自己研修計画

具 体 的 教 育 実 践

【教育目標の実現に向けた取組】

- ① 将来展望を持ち、その実現に向かい最後まであきらめず、何事にも一生懸命取り組める学力を持った子どもの育成
- ② 違いを認め合い、励まし高めあえる子どもの育成
- ③ 基本的な生活習慣の確立した子どもの育成



【教育活動を進めるにあたって】

《児童理解に努め、確実な働きかけを》

1. 子どもの姿から考える。(行動の様子や友人関係も含め)
 - ・登校の様子から … いつ登校しているか？(前日の生活の様子を推測する)
 - ・休み時間の様子から … すごし方(誰と？固定？流動的？)友人との関係は？
 - ・学習の様子 … 持ち物(状態は？)意欲(ノートやプリントの様子は？)
 - ・給食の様子から … 喫食の様子(食べ方？偏食は？)持ち物の状態は？
 - ・放課後の様子から … 下校の様子(誰と？関係は？)

○上記の観点からそれぞれの児童の抱えている課題が見えてくる。

2. 課題の要因を探る。

- ① 本人、家庭に課題があるのか？
 - ・親の養育態度・教育観は？
 - ・生活環境は？
 - ・生活のリズムは？
 - ・家庭学習は？
 - ・本人、家庭についていない力は？
- ② 学級・学年・学校に課題があるのか？
 - ・リーダーは？考え方は？
 - ・学級・学年・学校の価値観は？
 - ・指導内容・体制は？

3. 手立てを考え、実践する

- ・具体的で実現可能な目標と長期的な目標の共通理解を図る
- ・目標を意識した行動を
- ・本人や周りの子から情報収集
- ・得意・自信のあるものを全体場で披露
- ・少しでも進歩があれば、的確に評価し、本人、家庭に
- ・評価を繰り返し、より高度な目標へ

4. 取組の点検と評価を繰り返す

- ・教育活動全てにおいてPDCA (PLAN→DO→CHECK→ACTION)を行う。

《確かな学力をめざして》

校内研究について

中央教育審議会が平成20年1月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び総合支援学校の学習指導要領等の改善について」答申を行い、学習指導要領の改善にあたり、何点かの基本的な考え方が示された。その中に

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 思考力・判断力・表現力等の育成

③ 学習意欲の向上や学習習慣の確立。

が示されている。具体的には、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能は、例えば、小学校低・中学年では体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切との提言がなされた。この基盤の上に、思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、観察・実験、レポートの作成、論述等の知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱・漢字の読み書きなどの基本的な力を定着させた上で、各教科において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると、指摘した。（小学校学習指導要領解説 総則編より 一部抜粋）

本校において、過去国語科、算数科、国語科を研究教科として取り組んできており、また、読書活動やチャレンジタイムの活用等においても、本校児童の実態に即した指導を行ってきており、まだまだ研究の余地はあるが、一定の成果は見られた。

今回の指導要領の改訂により社会科や理科においては、評価の観点が社会的な思考・判断 → 思考・判断・表現に、科学的な思考 → 科学的な思考・表現と変わっており、求められる表現力は過程や結果の表現から事実より考えたことの表現へと変わった。さらに、伝えあうことで学習の深まりを目指すことが求められており、言語活動の充実を図る必要性がある。生活科では以前より思考・表現となっているが、充実したい事項として生活科でも言語活動が挙げられている。

このように、社会科・理科・生活科においては、以前から言われる問題解決的な学習形態を重視すると共に、言語活動の充実を図っていかなければならない。

上記のことを受け、4年前より研究教科を社会科・理科・生活科とし研究を進めてきた。4年間を経て一定の成果が見られ、本校児童の学力向上につながる授業形態が見えてきたところであるが、今年度、その総仕上げとしてさらに研究を深め、ICT 機器等も適切に効果的に活用するなどしながら、日野小学校の児童実態に適応した授業のあり方を求めていくことが大切であると考えている。

そこで、今年度も研究主題を

自ら考え、共に学び合う子

～主体的な学びと言語能力の向上を目指して～

とし、中心教科を低学年・・・生活科、中学年・・・理科、高学年・・・社会科として、子ども達の主体的な学びと言語能力の向上を目指していく。

日々の取組

1. 授業の充実

- ・学力向上に向けたチェックリストの活用により個々の授業力を高める。
- ・成果と課題を明確にすることによって授業力の向上を図るとともに、見通しをもって取り組む。（指導計画・週案の有効活用）
- ・すべての教育活動で「話す・聞く」力を育成し、教科学習では、「書く」活動を意識し、ノート指導を確実にする。
- ・効果的なT・T体制、少人数学習など、指導体制の工夫と充実を図る。
- ・問題解決学習や体験を通した学習の充実を図る。説明より学習活動。
- ・考えさせること、教え込むこと、スキル学習が必要なことをしっかり意識し、取り組む。

2. 学習集団づくり

- ・「話のしっかり聞ける子・話せる子」の育成に努める。
- ・学習に向かう姿勢づくりを共通認識する。
- ・児童朝会や全校集会などで表現すること、聞くことを意識し進める。

3. 帯時間「チャレンジタイム」での取組

- ・児童の実態に合わせた基礎・基本の学力の向上を目指す。
(月・水・金は算数、繰り返しの計算練習、火・木は国語の言語事項に関する練習問題及び短作文の練習。)
- ・高学年は、中学進学を視野に入れて、少しでも基礎・基本に関わる学習の習熟を図るようにする。

4. 読書の習慣化

- ・帯時間「わくわくタイム」での取組・・・朝の10分間読書
- ・年間読書100冊以上の児童が増えるよう、図書室の効果的な活用を促す。
- ・地域の図書館の事業を活用し、児童の読書への関心を高める。

5. 家庭学習の習慣形成

- ・学習予定表の充実・・・児童自身、内容や目標を書き込み、振り返りが出来る予定表であり、保護者と連携できるような形にする。児童への励ましやシールなどで意欲づけも図る。
- ・学習時間(15×学年)の確保と自主学習の奨励(具体的に例示して)
- ・家庭学習の内容について、十分吟味する。(少なくとも学年内で)

《日野小学校コミュニティスクール(学校運営協議会)の推進》

1. 設定の理由

本校は保護者の学校教育への関心があまり高くない実態があり、学習面・生活面において課題のある児童が多数見られる。従って、児童が「生きる力」を身につける取組を推進するためには、学校・家庭・地域が一体となって「地域の子どもは地域で育てる」取組を進めることが重要である。そのため、保護者や地域の方々の声を学校運営に反映し、学校教育への参画意識を高めるとともに、ボランティアなどによる支援を充実させることが大切であると考えている。

2. 具体的な取組

- ・学校の取組について理事会に周知する。
- ・理事会からの提案を受け、企画推進委員会を中心に各部会での具体的な活動計画を話し合い、各部会を中心に実施する。
- ・学校評価との関連を図るなどして学校の教育課題を重点化すると同時に、家庭や地域が果たすべき役割やあり方についても論議・検討し、地域と一体となってその課題解決に向けた取組を進める。

《教職員の姿勢の共通理解》

子ども一人ひとりを徹底的に大切にするという立場、最大の教育環境として教職員は子どもの前でめざす子どもの姿を演じる。

- あいさつの励行 … 来校者や子ども達に教職員から
- 正しい言語環境を … 心のこもった、丁寧な言葉がけと指導を
- 場に応じた服装を … 教室で授業の時の服装、体育の指導時の服装などのけじめを
- 緊急時の子どもを守れるよう、動きやすい履物を（踵のあるもの）

授業について

1. 8時35分には1時間目の準備を終えておく。
2. 読書指導の時間は、教室で指導に当たる。
3. 欠席理由の不明児童はインターホンで職員室へ（9時までには）。
4. チャイムの合図（時刻）を大切に。
5. 確実な授業時間を確保する。
6. 子供の理解度を把握し、目標の達成度を検証する。
7. 指導し切れなかった児童への手立てを打つ。
8. 放課後、児童だけで教室に残さない（学習、係活動を含め）。

日々の取組について

1. 安心・安全対策 … 子ども達に的確な指導を
2. 学年会の機能 … 学年・学級の情報交換、部会等の確実な連絡
3. 問題行動等の発生時 … 学年主任、生徒指導主任へ、同時に管理職へ
4. 研修等出張の場合 … 代行者が必要な場合、事前に教頭まで（週末までに）
5. 教員の協力が必要な場合 … 事前に教頭まで（1週間ほど前までに）
6. 研修会・職員会 … 資料は事前に配付（またはフォルダにアップ？）
7. 週案・提出物 … 確かな管理と期日の厳守
8. 教職員の姿勢 … 率先して「み・そ・あ・じ」
 - ・ 身支度を整える
 - ・ 掃除を、きちんと丁寧にする
 - ・ 挨拶をしっかりする
 - ・ 時間を守る

物品の管理

1. 教室・特別教室の整理整頓（窓際の安全管理も）
2. 返却は迅速に確実に
3. 破損した場合や発見した場合は速やかに分掌主任または教頭に
4. 消耗品等の経費削減に努める